

(別記)

2020 年度菊池市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

令和元年度経営所得安定対策における全耕地面積に占める主食用米作付面積の割合は約 46.08%であり(田に占める主食用米作付面積割合は 47.17%)、転作作物に占める麦、大豆、WCS 用稲の割合が高く、土地利用型作物として担い手への集積が進んでいる。

主食用米の需要が減少する中で、これまでは生産数量目標に沿った主食用米の生産と、高収益作物への転換、団地化や新規需要米の多収品種の取り組みなどによる効率化及びコスト削減を推進し、収益確保を図ってきた。

一方で、農業者の高齢化、後継者不足により農家戸数の減少が進み、不作付地が増加している。特に中山間地域ではその状況が顕著であり、1筆当たりの面積が小さいこと、鳥獣害及び湿田であることも不作付地増加の大きな要因となっている。

そのほか、麦、大豆については、排水不良、土壌酸度の低下等により、単収の低下を招いており、是正が必要である。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

売れる米作り、需要に応じた米作りを行い、かつ主産地としての地位を確保する。耕種農家に対し、作付面積の目安等は示さないが、営農計画書等で主食用米の作付動向を把握し、必要に応じて指導を行う。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

菊池地域では、域内流通による飼料用米供給牛のブランド化を目指しており、多収品種作付の推進を図っている。また、主食用米混入防止の観点から、刈取は作付け者本人ではなく刈取組合等へ依頼している。現状として、作付け者及び面積が減少している状況であり、需要に応じるために作付面積増を図る必要がある。

イ 米粉用米

産地交付金を活用しながら、地元実需者との結びつきを強化し、米粉用米多収品種生産の拡大を図る。

ウ WCS 用稲

契約畜産農家との結びつきを強化するとともに、産地交付金を活用し WCS 用稲生産水田への堆肥散布の取組を支援することで資源循環を促し、適切な生産・管理に取り組む。

(3) 麦、大豆、飼料作物

明渠、暗渠等の排水対策に取り組みながら、団地化を継続し、担い手による作付けを支援することで作付面積の拡大を図る。

(4) そば、なたね

産地交付金を活用し、生産量を安定させるために明渠、暗渠等の排水対策に取り組みながら、取り組み地域と実需者との契約に基づき、現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

野菜、花き類の生産拡大を図ることにより、農業経営の安定化や自給率の向上につなげる。特に、メロン、ごぼう、イチゴ、アスパラガス、宿根カスミソウ、トルコギキョウを地域重点作物とし、作付面積の拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)	2021年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,664.8ha 8,740t	1,665ha 8,741t	1,750ha 9,225t	1,665ha 8,741t
飼料用米	80.3	83.0	86.0	86.0
米粉用米	2.1	2.1	3.9	3.9
新市場開拓用米	0.0	0.0	0.0	0.0
WCS用稲	595.6	630.0	553.7	630.0
加工用米	0.0	0.0	1.0	0.0
備蓄米	0.0	0.0	0.0	0.0
麦	571.8	600.0	561.0	600.0
大豆	60.3	60.0	63.0	63.0
飼料作物	1337.8	1350.0	1,326.2	1350.0
そば	19.8	20.0	20.5	20.5
なたね	0.0	0.0	0.2	0.0
その他地域振興作物	358.2	362	399	367
野菜	213.8	215.0	257.0	220.0
花き・花木	48.8	50.0	52.0	50.0
果樹	96.5	97.0	90.0	97.0

※主食用米の作付予定面積（2020年度）、目標値（2021年度）において使用した単収は

525kg/10a

※主食用米の2020年度作付目標値において使用した単収は 527kg/10a

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2019 年度	2020 年度
1	メロン、イチゴ、ア スパラガス、ゴボウ カスミソウ、トルコ ギキョウ	地域重点作物助成 （基幹）	作付面積拡大	119.3ha	(141.0ha) 120.0ha
2	野菜、花き、 花木、果樹	地域振興作物助成 （基幹）	作付面積拡大	171.7ha	(204.0ha) 175.0ha
3	飼料用米 米粉用米	飼料用・米粉用米 多収品種加算	作付面積拡大	82.4ha	89.0ha
			単収増（飼料用米）	517kg/10a	565kg/10a
			単収増（米粉用米）	571kg/10a	(555kg/10a) 575kg/10a
4	麦・大豆	麦・大豆担い手加算 （基幹）	作付面積拡大	33.8ha	(27.0ha) 35.0ha
			単収増（小麦）	338kg/10a	(285kg/10a) 340kg/10a
			単収増（大麦）	323kg/10a	(280kg/10a) 325kg/10a
			単収増（大豆）	111kg/10a	170kg/10a
5	大豆	団地化加算（基幹）	作付面積拡大	13.6ha	(13.0ha) 14.0ha
			団地化率増	16.9%	(16.0%) 17.0%
			単収増	134kg/10a	160kg/10a
6	麦、大豆、 飼料作物	二毛作助成（二毛作）	二毛作の付面積拡 大	1,536.5ha	(1510.0ha) 1550.0ha
			水田利用率増	143.8%	150%
7	飼料用米 米粉用米	わら利用の取組（耕 畜連携）（基幹）	作付面積拡大	57.2ha	59.5ha
			わら利用率増	69.4%	73.0%
8	WCS 用稲	資源循環の取組（耕 畜連携）（基幹）	作付面積拡大	433.0ha	(400.2ha) 450.0ha
			取組率増	72.7%	80.0%

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。